

能代山本医師会病院

「公的医療機関等 2 0 2 5 プラン」

平成 3 0 年 3 月策定

能代山本医師会病院の基本情報

医療機関名 : 能代山本医師会病院

開設主体 : 一般社団法人 能代市山本郡医師会
会長 山須田 健

所在地 : 秋田県能代市桧山字新田沢 1 0 5 - 1 1

許可病床数 :
(病床の種別) 一般 165 床 療養 35 床

(病床機能別) 急性期 165 床・慢性期 35 床

稼働病床数
(病床の種別) 一般 165 床 療 養 35 床
(病床機能別) 急性期 165 床・慢性期 35 床

診療科目 : 内科、内分泌内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科
消化器内科、外科、消化器外科、乳腺外科、外科（化学療法）
呼吸器外科、小児外科、皮膚科、肛門外科、整形外科
リハビリテーション科、眼科、アレルギー科、放射線診断科
泌尿器科（人工透析）、腎臓内科、心臓血管外科、脳神経外科
麻酔科、腫瘍内科、食道外科 26 科

職員数
: 医師 16 名、歯科医師 1 名
看護職員 128 名
その他専門職 39 名
事務職員 15 名
その他職員 44 名 計 243 名。

【１．現状と課題】

① 構想区域の現状

地域の人口及び高齢化の推移

- 能代山本地域の総人口は、平成 29（2017）年 83,135 人、平成 37（2025）年には 69,428 人、平成 52（2040）年には 50,744 人になる予想である。
- 65 歳以上の高齢者人口は平成 32 年(2020 年)まで増加し、その後減少する。平成 52 年(2048 年)には総人口に占める割合は 48.1%まで増加する。

地域の医療需要の推移

- 平成 37 年(2025 年)4 機能の医療需要（人/日）は平成 25（2013）と比較し 54 人減少すると推測されている。平成 37（2025）年の医療需要に基づく必要病床数は 95 床減で、高度急性期及び回復期の病床が不足し、急性期及び慢性期の病床が過剰になる予測である。

4 機能ごとの医療提供体制の特徴

- 平成 29（2017）年 12 月現在、能代・山本地域内には病院が 7 施設あり、救急告示病院が 3 施設、療養病床のみを有する病院が 3 施設、精神科病院が 1 施設である。
- 救急告示病院の 3 施設では、主として急性期医療を提供しています。
- 療養病床のみを有する 3 施設では、主として回復期や慢性期の医療を提供する。

地域の医療需給の特徴

- 一般病床の利用率は 77.5%で、療養病床の利用率は 89.9%になっている。
- 急性心筋梗塞、心臓外科疾患以外はおおむね当地域で完結されている。
- 当院は、地域医療支援病院として、病院・診療所から紹介された患者に対する医療提供や医療機器の共同利用を通じて、診療所医師を支援している。

② 構想区域の課題

- 急性心筋梗塞について、経皮的冠動脈形成術や心臓リハビリテーションを実施する施設がないため、地域内で実施する体制の整備が望まれる。
- 急性期医療を提供する 3 病院は連携をしっかりとし急性期医療の向上に努める。
- 医師数（人口 10 万対）は県平均より 42.7 人不足し、医師不足は切実な問題である。

③ 当院の現状

○理念

わたしたちは患者さん本位の質の高い医療を提供し、みなさまの信頼に応える病院を目指します。

○基本方針

- 1.地域医療支援病院として、他の医療機関と密接に連携し高度医療・救急医療・高齢者医療・予防医学を中心とした質の高い医療を提供します。
- 2.患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明と同意の上診療にあたります。
- 3.医療関係者の研修、教育の場を提供し、医療の発展に貢献します。
- 4.健全な経営により、医療環境の一層の充実を目指します。
- 5.働く喜びと謙虚に学ぶ気持ちを大切に、人間性の向上に努めます。

○当院の特徴

地域医療支援病院として診療所、病院からの紹介患者さんに対する医療提供や医療機器の共同利用を通じて診療所、病院を支援している。紹介外来型、全床開放型の当院の平成 28 年度の病床共同利用率は 5.9%、共同指導件数は延べ 1352 件/年である。また、紹介率は 67.3%、逆紹介率は 97.1%である。届出入院基本料は 10 : 1 で、平均在院日数は 20.9 日、病床稼働率利は 87.9%である。

一般病床は 165 床で、急性期医療を中心に行っている。特にがんの手術、内視鏡治療、化学療法は多く、また、がん相談支援センター、セカンドオピニオン外来、院内がん登録等充実している。療養型病床は 35 床で、がん末期患者さん、神経難病患者さん、移動困難な透析患者さんを中心に治療している。

○政策医療

- 5 疾病のうち、がん、脳卒中、糖尿病、心血管疾患を主とする。
- 5 事業のうち、救急医療、災害時における医療を主とする。

○災害時における医療

大規模な災害時（津波、大洪水）、当院は高台にあり一番影響を受けにくい病院である。

○他医療機関との連携

あきたハートフルネットに参加し病診連携、病病連携を一層推進する予定である。また、地域包括ケアシステムの中核として医師会全体で医療・保健・介護サービスの提供体制を構築していく。

④ 当院の課題

医師不足を改善し、現状の体制を維持する。

【2. 今後の方針】

①地域において今後担うべき役割

- がん、消化器疾患、呼吸器疾患、脳卒中、心疾患等の急性期医療を一層充実させて行く。
- 地域医療支援病院として、ハートフルネットを利用して、他の医療機関と密接に連携し高度医療・救急医療・高齢者医療・予防医学を中心とした質の高い医療を提供する。
- 地域包括ケアシステムの中核として医師会全体で医療・保健・介護サービスの提供体制を構築していく。
- 専門医養成の研修施設として充実に努める。

② 今後持つべき病床機能

将来的にベッドの削減をして、回復期機能病床を持つか検討する。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

基本的には現状の機能を維持する予定である。将来的には今後の医療需要の推移を加味して、ベッド削減をして、回復機能病床を持つか検討する。